

平成29年度 大学院4年制博士課程における自己点検・評価の内容

平成24年度開設の4年制博士課程を設置する各大学は、以下の要領に基づき自己点検・評価を行い、その内容を次ページ以下の様式により、各大学のホームページで公表するとともに、そのURLを（5月26日（金））までに文部科学省高等教育局医学教育課へ報告してください。

要領

- ・作成に当たっては、これまでに実施した自己点検・評価も踏まえつつ、学年完成後（平成29年5月1日現在）の状況等について自己点検・評価を行い、その結果や問題点、変更点、改善計画などを枠内に記載する。
- ・「平成24年度に行われた『大学院4年制博士課程』における研究・教育などの状況に関する自己点検・評価について」（平成24年11月8日 薬学系人材養成の在り方に関する検討会）を参照する。

項目

- 入学者数、在籍者数、退学者・修了者数（※新規事項）
- 「理念とミッション」、「アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー」と実際の教育との整合性
- 入学者選抜の方法
- カリキュラムの内容
 - ・シラバス
 - ・教育課程等の概要（別紙様式第2号）
 - ・履修モデル
- 全大学院生の研究テーマ
- 医療機関・薬局等関連施設と連携した教育・研究体制
- 学位審査体制・修了要件
- 修了者の博士論文名、学術雑誌への掲載状況、進路状況（※新規事項）
- 社会人大学院生への対応状況（※新規事項）
- 今後の充実・改善（※新規事項）

自己点検・評価 様式(平成29年度実施)

大学名 名城大学

研究科・専攻名 薬学研究科・薬学専攻

○ 入学者数、在籍者数、退学者・修了者数

※入学のコースを別に設けている大学は、コース別に記載すること。

※既退学者数及び既修了者(学位取得者)数については、平成29年4月末までの数を記載すること。

・平成24年度入学者

入学者数: 9 名(定員 4 名)

内訳:6年制薬学部卒業生 4 名(内社会人 0 名)

4年制薬学部卒業生 5 名(内社会人 4 名)

薬学部以外の卒業生 0 名(内社会人 0 名)

在籍者数(平成29年5月1日現在): 0 名

既退学者数: 0 名

既修了者(学位取得者)数: 9 名

・平成25年度入学者

入学者数: 10 名(定員 4 名)

内訳:6年制薬学部卒業生 2 名(内社会人 0 名)

4年制薬学部卒業生 8 名(内社会人 8 名)

薬学部以外の卒業生 0 名(内社会人 0 名)

在籍者数(平成29年5月1日現在): 3 名

既退学者数: 1 名

既修了者(学位取得者)数: 7 名

・平成26年度入学者

入学者数: 6 名(定員 4 名)

内訳:6年制薬学部卒業生 4 名(内社会人 1 名)

4年制薬学部卒業生 2 名(内社会人 2 名)

薬学部以外の卒業生 0 名(内社会人 0 名)

在籍者数(平成29年5月1日現在): 6 名

既退学者数: 0 名

・平成27年度入学者

入学者数: 4 名(定員 4 名)

内訳:6年制薬学部卒業生 2 名(内社会人 0 名)

4年制薬学部卒業生 1 名(内社会人 1 名)

薬学部以外の卒業生 1 名(内社会人 1 名)

在籍者数(平成29年5月1日現在): 4 名

既退学者数: 0 名

・平成28年度入学者

入学者数： 8 名(定員 4 名)

内訳:6年制薬学部卒業生 6 名(内社会人 3 名)

4年制薬学部卒業生 1 名(内社会人 1 名)

薬学部以外の卒業生 1 名(内社会人 1 名)

在籍者数(平成29年5月1日現在): 7 名

既退学者数: 1 名

・平成29年度入学者

入学者数: 7 名(定員 4 名)

内訳:6年制薬学部卒業生 4 名(内社会人 2 名)

4年制薬学部卒業生 1 名(内社会人 1 名)

薬学部以外の卒業生 2 名(内社会人 2 名)

在籍者数(平成29年5月1日現在): 7 名

既退学者数: 0 名

○「理念とミッション」、「アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー」と実際に行われている教育との整合性

6年制薬学部教育は医療人として質の高い薬剤師の養成を主目的としており、その上に設置される薬学研究科では、医療の現場における臨床的な課題を対象とする研究領域を中心とした高度な専門性や優れた研究能力を有する薬剤師等の養成に重点をおいた臨床薬学・医療薬学に関する教育研究を行うことが設置目的とされている(薬学系人材養成の在り方に関する検討会第一次報告:平成21年3月23日)。本研究科の理念とミッションは、この設置目的に照らし合わせても相応しており、評価できる。

アドミッションポリシーにおいて、本研究科は、薬学のスペシャリストの養成を人材養成目的としていることから、入学者には、国民の健康維持・増進にかかわる薬学の幅広い知識、科学的視点から問題を発見し、独創性、創造性をもって論理的に解決する能力、医療人として相応しい倫理観と人間性、薬剤師の新しい職能の開拓・発展に貢献できる能力を求めており、専門性の高い薬剤師・高度な臨床研究推進者の育成にあたって、その基盤となる能力を求めている点で評価できる。また、本研究科の専修分野が学部教育のテーマを発展させたものに相当し、学部教育と大学院教育の連続性が確保されている点も評価できる。

カリキュラムポリシーにおいて、本研究科は、薬学のスペシャリストの養成を人材養成目的としていることから、薬剤師としての能力養成のみならず、高度な臨床研究を推進できる能力養成も謳っている点は評価できる。また、アドミッションポリシーとカリキュラムポリシーが関連しており、人材養成目的に沿った一貫した教育・研究体制を構築する姿勢が伺える点でも評価できる。

ディプロマポリシーにおいては、本研究科は6年制薬学部卒業生の入学が主であると考えているが、薬剤師免許を持たない学生、他学部・他研究科卒業生の入学も想定しており、平成25年度より、非薬学系分野の出身者を対象に医療薬学の基礎となる知識を身につけることを目的とした基礎薬学特論を開講している。

本研究科では以上のように、学生に本研究科の人材養成目的を十分理解させたうえで、環境衛生科学分野、医療情報科学分野、病態解析科学分野、薬物治療科学分野、薬物動態科学分野の5つの専攻分野において、独創的で創造的な高い研究力及び高度な専

門性と技術・指導力を兼ね備えた薬学のスペシャリストを養成するという姿勢で教育が実践している。特に薬剤師免許を持つ学生は、臨床に精通した薬学研究者や、チーム医療を実践でき職能開拓・発展に指導的に貢献できる臨床薬剤師として、薬剤師免許を持たない学生は、医薬品の研究開発・大学における研究者として活躍できる教育を実践している。

・「理念とミッション」、「アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー」と、実際に行われている教育との整合性について、4年制薬学部を基礎とした博士課程の教育課程との違いを明確にしつつ、自己点検・評価を行うこと

○ 入学者選抜の方法

アドミッションポリシーに従って、本薬学研究科にて教育を受けるにふさわしい適性と能力を確認するため、以下の試験を行う。評価方法はA・B・C・Dの総合評価とする。

① 推薦入学試験

本学薬学部にて在学する6年次学生で、5年次までの成績が原則として学年の上位3分の1以内の席次で、高い研究意欲を持ち、指導教員の推薦が得られる学生、及び他大学6年制薬学部にて在学している6年次学生で、優れた研究成果を上げ、所属する大学の指導教員または学部長（学長）の推薦が得られる者について、推薦入学試験を実施する。これまでの研究成果、博士課程における研究・学習計画を中心とした口述試験を実施して評価する。

② 一般入学試験

出願資格のいずれかの条件を満たしている者を対象として実施する。専門科目試験に係わるこれまでの研究成果、博士課程における研究・学習計画を中心とした口述試験及び外国語（英語）試験を実施して評価する。

③ 外国人留学生入学試験

出願資格のいずれかの条件を満たし、さらに出入国管理法及び難民認定法において、本学入学に支障のない在留資格（留学）を有する者、又は得られる者で、日本語に習熟し、受講ならびに日常生活に困難のないことを条件とし、本薬学研究科の出願資格確認を受けた者を対象に実施する。専門科目試験に係わるこれまでの研究成果、博士課程における研究・学習計画を中心とした口述試験及び日本語、外国語（英語）試験を実施して評価する。

④ 社会人入学試験

出願資格のいずれかの条件を満たし、さらに下記のいずれかの条件を満たした者を対象に実施する。

- (イ) 6年制大学を卒業又は大学院修士課程を修了して1年以上の実務経験を経た者で、本研究科の出願資格確認を受けた者
- (ロ) 4年制大学の薬学部を卒業して3年以上の実務経験を経た者で、本薬学研究科の出願資格確認を受けた者
- (ハ) 本薬学研究科が特に認めた者で、出願資格確認を受けた者

専門科目試験に係わるこれまでの研究成果、博士課程における研究・学習計画を含む研究事項、職務及び社会活動等を中心とした口述試験及び外国語（英語）試験を実施して評価する。

○ カリキュラムの内容

教育方法の基本は、自立した薬学研究者として社会で活躍できる能力、資質、姿勢、素養を身につけることであり、特論科目をはじめ、それぞれの授業科目においては、当該学生の指導教員だけではなく、複数の教員による教育研究指導体制を基軸とした教育方法により指導を行う。授業科目の履修に際しては、学生は指導教員と相談して、学修計画を立て、学生が志向する将来の進路に最適と考えられる授業科目の選択、研究指導の進め方等について確認した上で、履修科目を決定する。

本研究科における教育課程は、専門科目と関連科目に区分し、専門科目には、学生の学位論文作成に直接係わる専修科目として「特論」科目と、学生が4年間にわたり学位論文作成のために行う実験・実習及び研究指導を行う「特殊研究」科目（Ⅰ～Ⅳ）を配置して、これを一つの専修分野として構成する。本研究科では、①食品をはじめとして化学物質や環境が生体に及ぼす影響を扱う環境衛生科学分野、②医薬品の副作用や経済性などを含め医療行為全般の問題点を扱う医療情報科学分野、③病態を理解し疾病の内的外的要因を明らかにする病態解析科学分野、④医薬品の有効性・安全性を疫学的・科学的に実証・解明する薬物治療科学分野、⑤薬物の体内動態を理解し、DDSの開発研究を進める薬物動態科学分野の5専修分野において、博士課程にふさわしい高度な薬学教育研究を展開する。

各専修分野には、1つの特論を開講するが、指導教員が所属する専修分野の特論（主専修科目という）及び、他の専修分野から2科目以上（関連科目を含む）の特論を選択履修し、合計3科目、10単位以上を修得することとする。特論は、毎週土曜日の午前（1・2時限）、午後（3・4時限）に各特論科目1科目（4単位）を開講され、3年次前期までに10単位以上を履修することができるように配置している。各専修分野の特殊研究Ⅰ～Ⅳ（各5単位）は、実験・実習から構成されており、毎週月曜日から土曜日に開講し、学位論文の作成に結び付く成果が得られるように配慮された環境の下で、進めるものとする。

関連科目（各2単位）としては、臨床現場での最新の研究成果の習得や高度医療の現場で研鑽を積む機会を提供する6ヶ月間の「臨床薬学研修」、臨床現場において外国人患者とスムーズにコミュニケーションができようとする専門的な医療英語を修得するための「医療英語特論」、先進的な臨床薬学教育が展開されている米国協定大学薬学研究科での2週間の「海外臨床研修」を設定している。また平成25年度より、非薬学系分野の出身者を対象に医療薬学の基礎となる知識を身につけることを目的とした基礎薬学特論を、主にながしプロフェッショナルコース生を対象に臨床腫瘍学特論を開講し、平成26年度にながし薬物療法学特論、27年度に緩和医療学特論を開講することとしている。

がんプロフェッショナルコース生を対象とした特論科目については、次期がんプロフェッショナル養成基盤推進プロジェクトの方向性を踏まえカリキュラムについて検討していく。

特論科目・関連科目については、いずれの科目においても複数の教員によるオムニバス形式を採用しており、異なる研究分野のアプローチにより専修分野の学術的内容を総合的に教授する。高い研究能力を有する薬剤師になるためには多様な知識や情報が求められる一方で、研究分野を深化させる必要がある。オムニバス形式による特論は、専修分野を構成する多様な研究分野からの刺激によって発想の転換を導き、従来とは異なるアプローチを見出すためにも効果的であり、これを基軸とした教育方法を展開していくことで本薬学研究科の人材養成目的にかなう薬学のスペシャリストを養成する。

また、高度な研究を進めるうえで、関連周辺領域に関与する他領域の教員の協力も得ることは、極めて有意義と考えており、特殊研究においても指導教員を軸とする責任体制を明確にした上で、副指導教員1名を配置し、指導に当たるものとしている。

- ・別途シラバス及び教育課程等の概要(別紙様式第2号)を添付すること
- ・履修モデルを添付すること
- ・資料1:シラバス
- ・資料2:教育課程の概要(様式第2号)
- ・資料3:履修モデル

○ 全大学院生の研究テーマ

	研究テーマ名	研究の概要
①	社会性や認知機能の障害の脆弱因子の役割に関する研究	抑うつ行動とプロテインキナーゼCを介したセロトニントランスポーター制御機構の関係、統合失調症や自閉症の発症と神経細胞移動関連分子との関連についての研究を行っている。
②	グアンファシン塩酸塩徐放錠の適正使用	小児の注意欠陥/多動性障害の新規治療薬として、グアンファシン塩酸塩徐放錠が市販予定である。しかし、本剤は、重篤な副作用が予測されている。そこで、本剤の適正使用及び安全性確保に資する情報の構築を目的とし、検討を行う。
③	糖尿病性末梢神経障害に有効な漢方方剤の探索と作用機序解明に関する研究	未だ有効な治療薬・予防薬のない糖尿病性末梢神経障害に応用可能な漢方方剤を探索し、有効処方を見出すことができれば、その作用機序を分子レベルで明らかにする。
④	全乾式工程技術による口腔内崩壊錠用苦味マスキング粒の新規な設計法の確立	機械的乾式複合化技術を利用し、薬物結晶の粉碎・造粒・高分子被覆のすべての工程を連続的に行い OD 錠用放出制御粒を作製する製剤化技術を確立する。
⑤	精神疾患患者の効果的な回復をもたらすスティグマ除去のためのプログラムの開発研究	精神疾患の薬物療法においては、効果や副作用の確認、服薬継続の支援、また患者のQOLの向上など、薬剤師が責任をもって服薬支援を行う必要がある。薬剤師が適切な服薬支援を行うためには、疾患や患者自身に対する偏見・差別(スティグマ)を除去することが不可欠であり、これにより、精神疾患患者に効果的な回復をもたらすことができる。薬剤師が精神疾患患者を受容し、精神疾患患者へ適切な服薬支援を行うことの基盤となる精神疾患患者に対するスティグマを除去する教育プログラムを開発するために、1)薬剤師が精神疾患患者に抱いているスティグマの現状と問題点を明らかにする、2)薬剤師の精神疾患患者への服薬支援を支える「薬剤師の精神疾患患者に対するスティグマ評価法」の作成、及びその妥当性の検討を行う。以上のプロセスを経て作成したスティグマの評価法を用いて、「精神疾患患者との良好な接触体験を活用したスティグマ除去教育プログラム」を開発する。
⑥	Azacitidine 適正投与に対する取り組みと評価	Azacitidine は、安定性が悪く、調製後1時間以内の投与が必要である。しかし、現状として規定内投与ができていなかった。そこで、適正使用を行うため、調製タイミングに対する介入を行った。この介入の効果について

		検証を行い、適正使用のガイドラインを作成する。
⑦	セマフォリン受容体欠損マウスの行動異常を起因する脳内病態に関する研究	PlexinA1 欠損マウスの行動異常を起因する脳内神経伝達異常を究明し、ヒト精神疾患研究の発展に貢献する。
⑧	血液中循環がん細胞 (CTC) による化学療法治療効果モニタリングと体液細胞診の検討	血液中循環がん細胞 (CTC) による化学療法治療効果モニタリングと体液細胞診について検討する。
⑨	Naked 核酸を用いた遺伝子吸入粉末剤開発の検討	安全かつ有効な遺伝子吸入療法治療法開発を目指し、ベクターを用いない独創的な遺伝子吸入粉末剤を開発中である。
⑩	球形添加剤を用いた超低温粉碎法による難溶性薬物の微粒化	液体窒素中での超低温粉碎を進展させ、市販の球形添加剤粒を粉碎媒体として採用した新規なコンタミレス粉碎を構築し、その粉碎機構を解明する。
⑪	終末期がん患者の生命予後に影響を与える患者背景因子の探索～化学療法実施と死亡場所・療養場所の関係～	終末期癌患者の生命予後に化学療法の実施が影響をしているかどうかを明らかにすることを目的に検討している。
⑫	新規 N-N-N Pincer 型配位子の触媒的有機反応への応用に関する研究	現在、医薬品には多くの光学活性体利用され、その合成法の開発は不可欠である。この課題に対して金属配位子を利用した新規光学活性体合成法の開発を行う。
⑬	難溶性薬物の溶解改善と粉体物性の向上を兼ね備えた機械的乾式処理技術による球形薬物顆粒の設計	超低温粉碎技術にて得た薬物ナノ粒子を乾式複合化処理し、急速な溶出挙動と優れた粉砕物性を付与したオーダードミクスチャー型複合粒の調製を図る。
⑭	脳梁発達初期のパイオニア軸索の伸長と道標形成における PlexinA1 受容体の役割	PlexinA1 欠損マウスにおける脳梁欠損の発生機構を究明し、ヒト脳梁欠損症と精神疾患研究の発展に貢献する。
⑮	保険薬局のビッグデータと気象・環境情報の融合による患者動向に関する研究～気象変動と喘息治療薬処方患者の関連～	保険薬局が保有するビッグデータと気象や環境に関するオープンデータを活用し、保険薬局に来局する患者の来局動向と気象・環境変化の関連性を明らかにする。これにより、予測予防型の健康情報を患者に提供する。
⑯	湿式粉碎・滴下凍結乾燥法によるシクロスポリン含有速溶性経口固形剤の設計	免疫抑制剤シクロスポリンの通常固形剤（錠剤・顆粒剤）の開発を目指し、湿式ビーズ粉碎・滴下凍結乾燥法を新たに構築するとともに、得られた製剤の溶解改善特性を評価する。
⑰	セルフメディケーション推進に向けた医薬品の製剤学および薬物動態学的評価に関する研究	セルフメディケーションを推進するため、スイッチ OTC 医薬品の製剤学的、生物薬剤学的特性を検討する。
⑱	幼若期ストレス負荷に	幼児・学童期において問題視されている「いじめ」を想

	よる高次機能への影響：発症脆弱因子に関する研究	定したモデルマウスを用いて、幼若期や成体期に発現する精神異常行動の機序解明と新規治療法の探索を行っている
⑲	高齢者におけるメロペネムの投与方法に関する研究	病院薬剤師としての経験から、高齢者に対する医薬品の処方について問題点を抽出し、患者の社会復帰を後押しできるように効果的な投与方法について検討している。
⑳	ラット脳 UDP-グルクロン酸転移酵素 1A の発現に関する研究	ラット脳 UDP-グルクロン酸転移酵素 1A の機能を明らかにし、脳疾患や外来異物による発現変動を解明する。
㉑	酵母輸送タンパク質 Emp46p/47p のコイルドコイルドメインの会合特性改変と pH バイオセンサーへの応用	酵母輸送タンパク質 Emp46p/47p のコイルドコイルドメインの会合特性改変と pH バイオセンサーへの応用について行う。
㉒	向精神薬による血液毒性の機序解明に関する研究	抗精神病薬による血液毒性の発現に関わるリスク因子を見出すため、精神疾患の薬物療法における血液毒性の機序解明に関する研究を行っている。
㉓	医薬品の安全性評価を目的とした JADER 研究の実態とそのあり方に関する検討	JADER を用いた研究が非常に盛んになっているが、そのデータの限界を考慮していない研究も多い。そこで、JADER 研究の実態を調査し、研究チェックリストを作成することにより、JADER 研究の質を向上させることを目的とする。
㉔	S-1 内服患者の DPD 遺伝子多型解析の検討	S-1 内服患者の DPD 遺伝子多型解析の検討をする。
㉕	経口抗がん剤 S-1 の各成分の高感度分析法の検討	経口抗がん剤 S-1 の各成分の高感度分析法を検討する。
㉖	麻薬取扱保険薬局における麻薬調剤の現状とその問題点に関する研究	麻薬取扱保険薬局における医療用麻薬の備蓄ならびに疼痛管理に関する調査・研究を行う。
㉗	アイスビーズを用いたコンタミレス湿式粉碎法による難溶性医薬品の溶解改善に関する研究	湿式粉碎の粉碎媒体として、微小球形氷粒（アイスビーズ）を用いた新規なコンタミレス粉碎法を確立するとともに、乾燥工程と併せた一連の固形製剤化プロセスを提案する。

- ・在籍する全大学院生の研究テーマ名及び研究の概要を記載すること
- ・研究の概要については、テーマ設定の着想点、研究成果が薬剤師の実務など臨床に与える影響等を「アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー」との整合性を踏まえつつ、簡潔に記載すること

○ 医療機関・薬局等関連施設と連携した教育・研究体制

臨床現場において指導者として活躍できる専門性の高い臨床薬剤師を育成するため、藤田保健衛生大学医学部・大学院医学研究科・同病院、愛知医科大学医学部・大学院医学研究科・同病院と連携し、臨床薬学研修を行う。また、名古屋大学大学院医学系研究科と学術交流協定を締結し、附属病院での研修を含めて、相互の教育課程を履修できる

体制を構築中である。

(H29)

臨床現場において指導者として活躍できる専門性の高い臨床薬剤師を育成するため、藤田保健衛生大学医学部・大学院医学研究科・同病院、愛知医科大学医学部・大学院医学研究科・同病院と連携している。また、名古屋大学大学院医学系研究科と学術交流協定を締結し、附属病院での研修・研究を行っている。

(注) 他職種との連携も含む

- ・ 研究テーマと関連づけて記載すること
- ・ 連携先の医療機関・薬局等関連施設側の指導体制も踏まえて記載すること

○ 学位審査体制・修了要件

学位授与基準:

本研究科に4年以上在学し、30単位以上(非薬学系出身者は32単位以上)を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、本研究科が行う学位論文の審査および試験に合格した者に博士(薬学)の学位を授与します。

学位論文審査基準:

提出された学位論文は、審査委員会のある学術誌に掲載されたか、若しくは掲載を受理された報文1報以上をもって作成されたものとし、その学位論文の審査は、以下の観点(基準)に基づいて行います。

1. 研究テーマの適切性
研究目的が明確で、学術的および社会的な意義を有していること。
2. 先行研究との関連性
先行研究の動向を調査したうえで、研究テーマの位置づけを明示していること。
3. 研究計画と研究方法の妥当性
研究テーマの適切性を十分に理解し、研究計画ならびに研究方法を立案していること。
4. 研究結果の論理的解釈と論旨の一貫性
一貫性のある合理的論述が展開され、研究テーマに対応した結論が提示されていること。
5. 学術的・社会的な貢献
当該研究領域の発展への貢献が期待されること。
6. 倫理的配慮
研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、人権の保護及び法令等の遵守への対応が適正になされていること。
7. 論文としての完成度
論文全体が論理的で明解な文章で記述されており、表紙・概要・目次・章立て・図表・引用・参考文献等、論文としての体裁が整っていること。また参考文献の引用が適切になされていること。

学位論文の審査方法:

学位の授与を申請する者は、所定の学位授与申請書に学位論文およびその他必要書類を添えて、研究科長を経て、学長に提出します。薬学研究科委員会は、論文内容に関連する研究指導教員のうちから、3名以上の審査委員(内1名は主査)を選出し、審査委員会を設け

ます。研究科委員内で学位論文を閲覧し、上記の観点より審査を行います。また、公開の学位論文発表会において、学位論文の内容、プレゼンテーション能力等の審査を行うとともに、審査委員会において、学位論文に関連する科目についても口頭または筆答による試験・試問を行います。公開の学位論文発表会は口頭発表を1時間とし、そのうち約30分を研究内容の説明に、約30分を質疑応答にあてるものとします。

○ 修了者の博士論文名、学術雑誌への掲載状況、進路状況

	博士論文名	学術雑誌への掲載状況			修了者の 進路状況
		タイトル	雑誌名	暦年・掲載 号・頁	
①	治療抵抗性統合失調症患者のリカバリーを目指したクロザピンの使用における副作用対策に関する研究	-	-	-	大 学 教 員・研究 員 2名 病院 2名 薬局 1名
②	セレノジグルタチオンの細胞毒性発現機構に関する研究	-	-	-	
③	水中分散性と注入時摺動性に優れた徐放性ポリ乳酸・グリコール酸共重合体懸濁注射剤の開発	-	-	-	
④	がん化学療法に伴う副作用の対策に関する研究: リスク因子の探索と抗菌薬治療の適正化	-	-	-	
⑤	妊婦という脆弱な集団における医薬品副作用の特徴とリスク因子に関する研究	-	-	-	
⑥	医薬品の物理化学的情報と副作用との関連性	-	-	-	
⑦	3T3-L1 細胞におけるアディポカイン分泌と脂肪蓄積に関する研究	-	-	-	
⑧	気液界面細胞培養系を応用した肺粘膜表面における吸入粉末剤の局所作用に関する研究	-	-	-	
⑨	吸入粉末剤の適用拡大を目的とした新規吸入粉末微粒子の開発	-	-	-	
⑩	地域包括ケアシステムに向けた認知症患者における医薬品適正使用に関する研究	-	-	-	
⑪	肝外臓器におけるUDP-glucuronosyltransferaseの速度論的解析ならびに発現変動に関する研究	-	-	-	
⑫	アミノ酸添加による生分解性	-	-	-	

	ポリカチオンおよび PEI 含有新規遺伝子粉末剤の安定化				
⑬	古代インドの薬物治療の伝承に関する研究 ートリパラー (triphalā, 「3種の果実」) の考察ー	-	-	-	
⑭	精神疾患の神経発達脆弱因子の探索とその機能解析: ウイルス感染モデル動物からのアプローチ	-	-	-	
⑮	肺 Mycobacterium avium 症における病態に関する菌遺伝学的研究	-	-	-	

- ・既修了者の博士論文名、博士論文に関連する論文の学術雑誌(査読付きのもの)への掲載状況及び修了者の進路状況を記載すること

○ 社会人大学院生への対応状況

講義を平日ではなく、すべて土曜日を開講する等、社会人大学院生が業務と大学院での学業を両立できるよう、配慮を行っている。

入学者の割合も社会人大学院生が増えていることから入学しやすい状況が整っていると評価できる。

研究指導については、年1回の発表会や副指導教員制度の導入により円滑に指導できるようしているが、業務との両立が難しい場合もあり今後の課題となっている。

- ・入学者選抜や入学後の履修における社会人への対応状況について、自己点検・評価(工夫や今後の課題を含む)を行うこと

○ 今後の充実・改善

定員充足の状況は安定していることから、学内の制度や研究環境は整っていると評価できる。一方で少ないながらも退学者と修了延期をする学生がいるため入学後のミスマッチや研究計画の遅延が起らないような対策を検討していく。

また、4年制博士課程において、現在5つの専修分野を設けているが、一部では教員自身の研究領域と所属分野に齟齬が生じており、抜本的な分野構成の見直しも検討している。

- ・自己点検・評価を踏まえ、大学院4年制博士課程の教育・研究における今後の充実・改善に向けた方策や課題を記載すること
- ・大学院生の在籍状況(定員充足の状況、修了・退学率等)や修了後の進路状況を踏まえた方策や課題についても記載すること